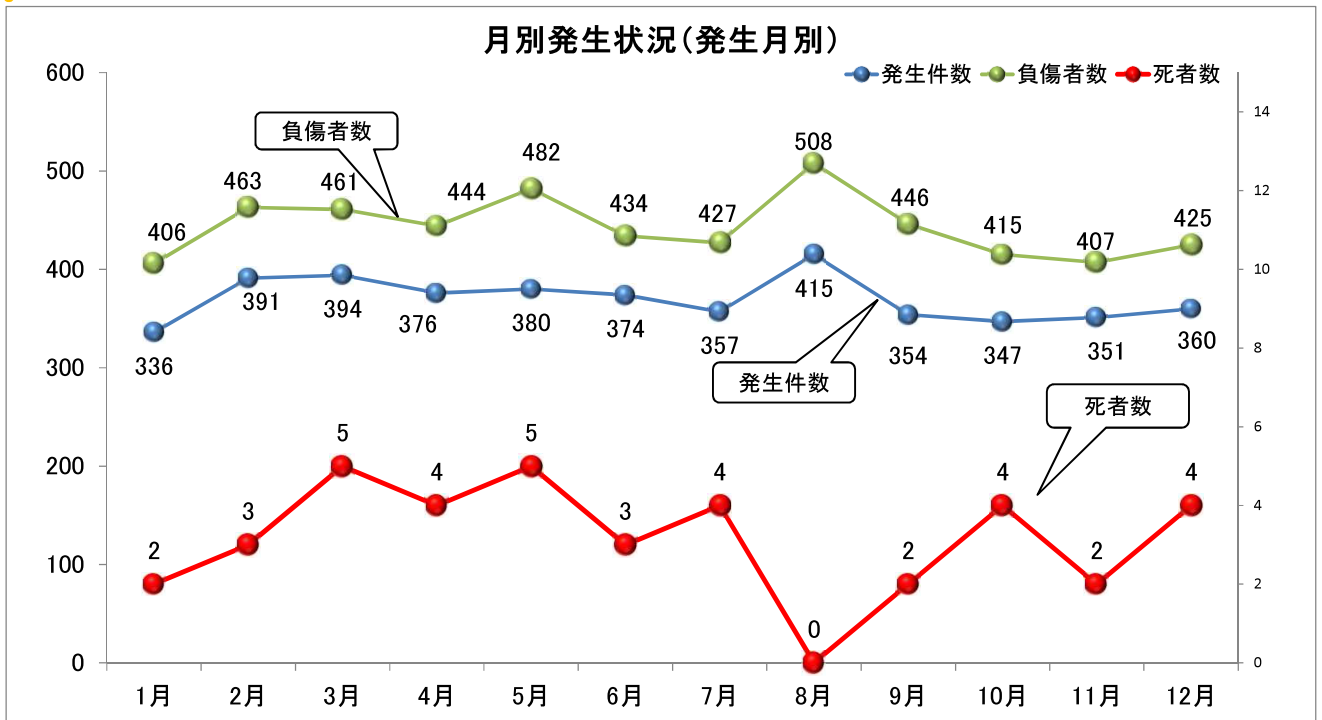


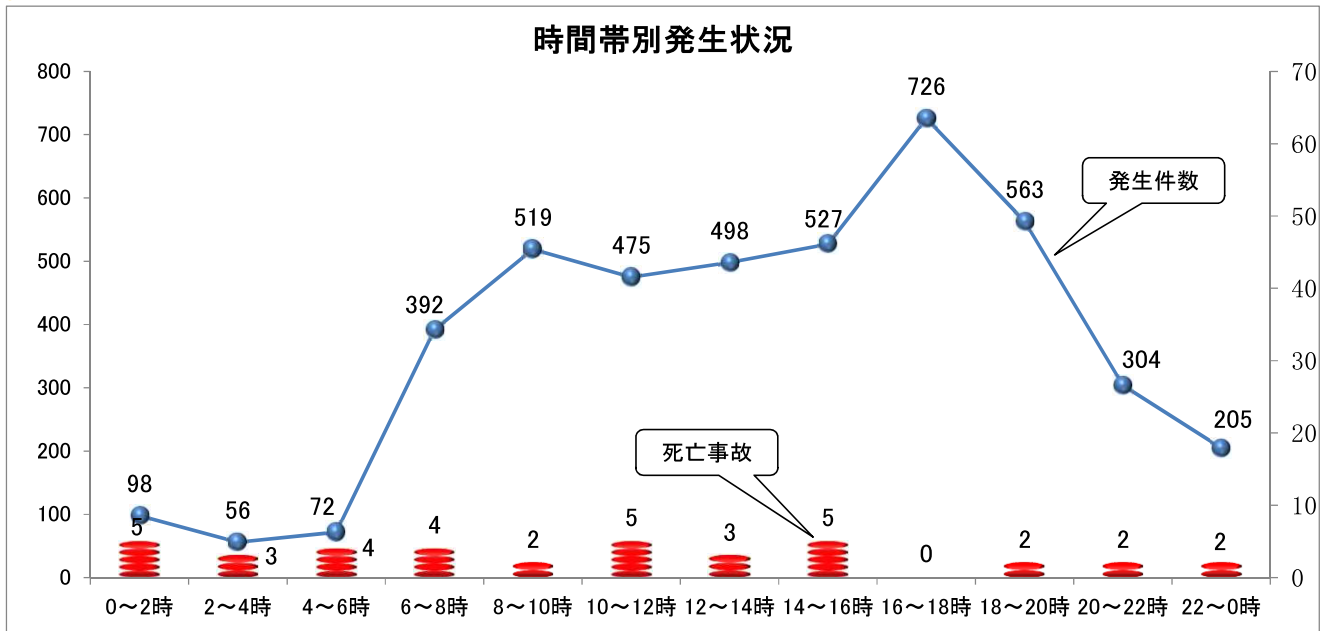
第2 平成30年中の交通事故発生状況

13 月別発生状況



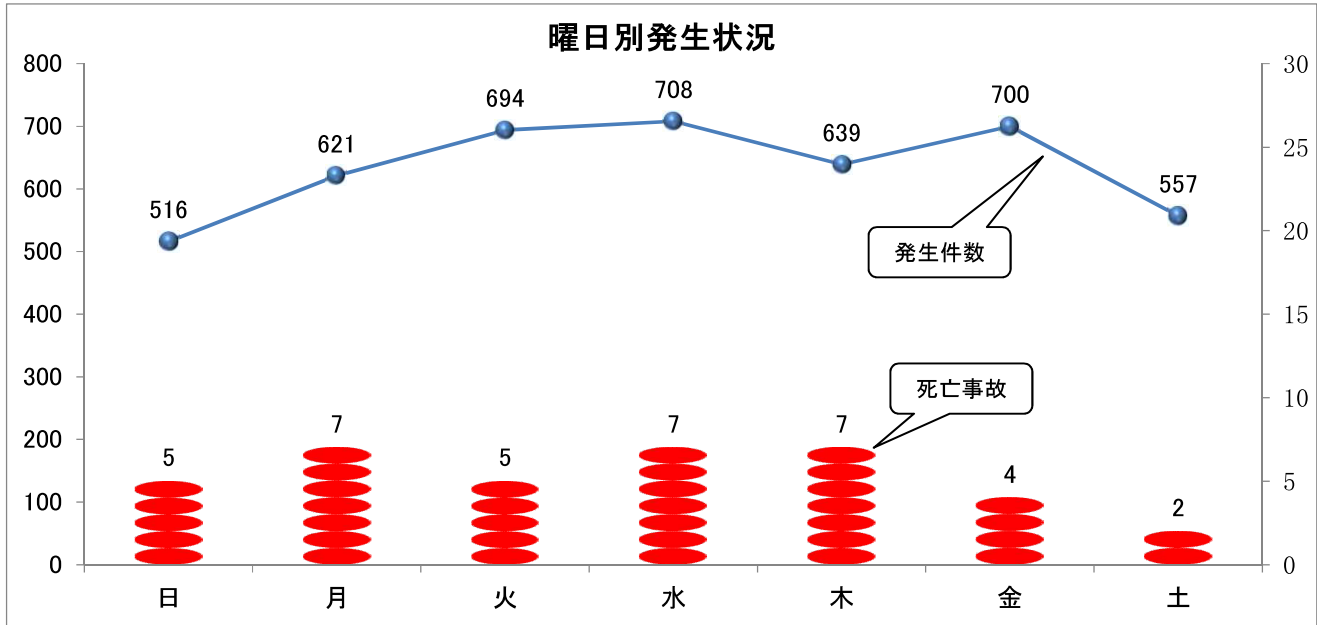
発生件数は、1ヶ月平均約370件で、8月(415件)が最も多く、1月(336件)が最も少なくなっています。
死者数は、3月と5月が5人で最も多く、8月の死者はありませんでした。

14 時間帯別発生状況



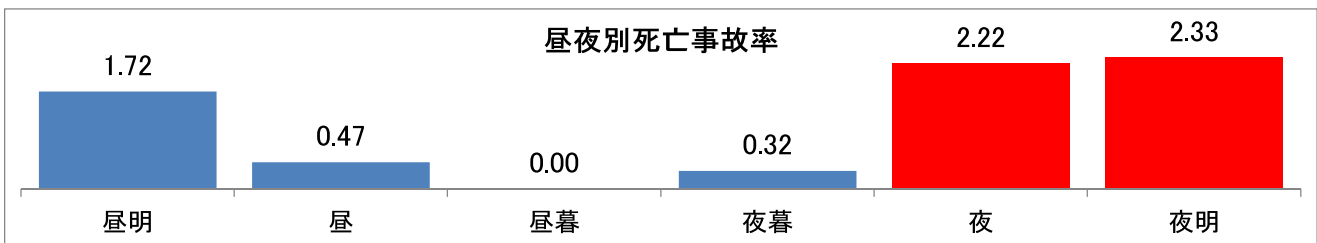
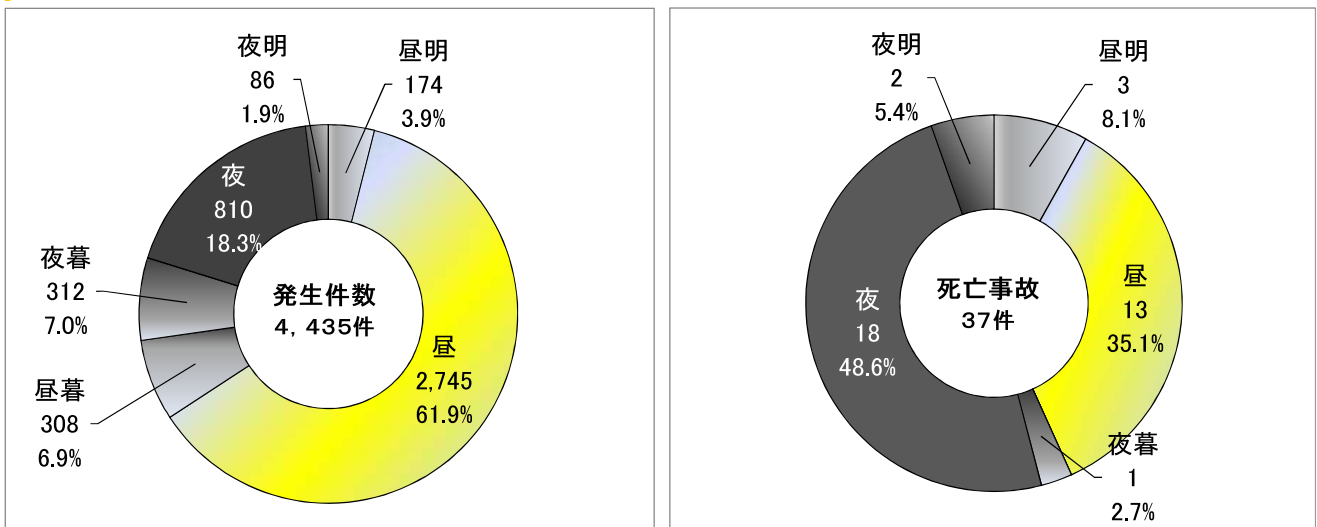
発生件数は、下校・帰宅時間帯(16時~18時)が最も多く、次いで登校・出勤時間帯(8時~10時)となっています。
死亡事故は0時~2時、10時~12時、14時~16時の時間帯に最も多くなっています。

15 曜日別発生状況



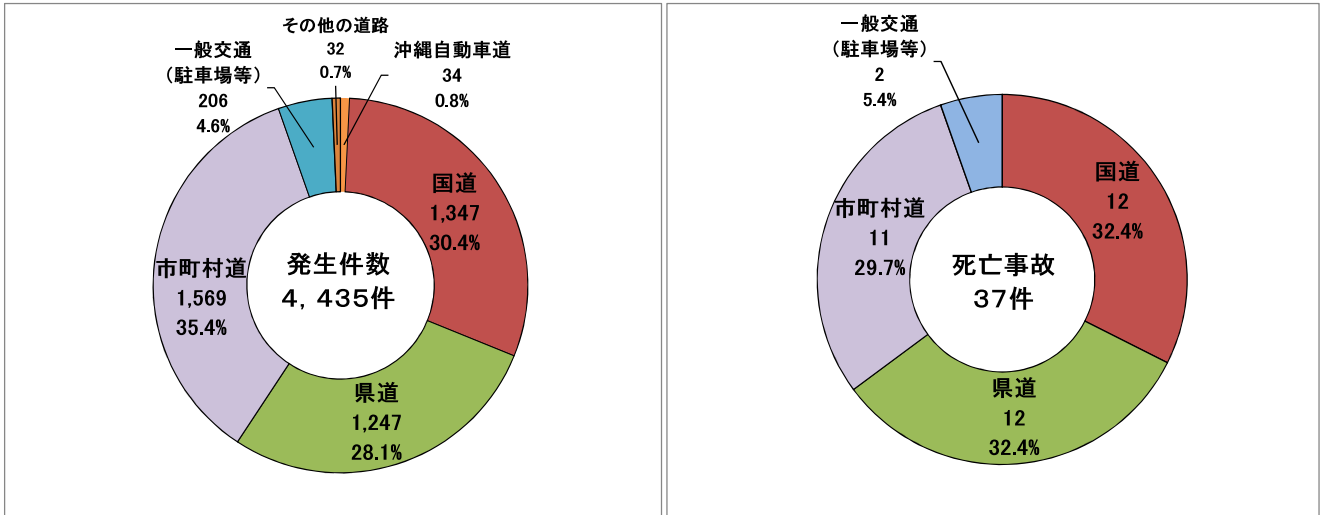
発生件数は、水曜日(708件)が最も多く、日曜日(516件)が最も少なくなっています。
死亡事故は、平日(月～木曜日)に約7割(70.3%)発生し、土曜日(2件)が最も少なくなっています。

16 昼夜別発生状況



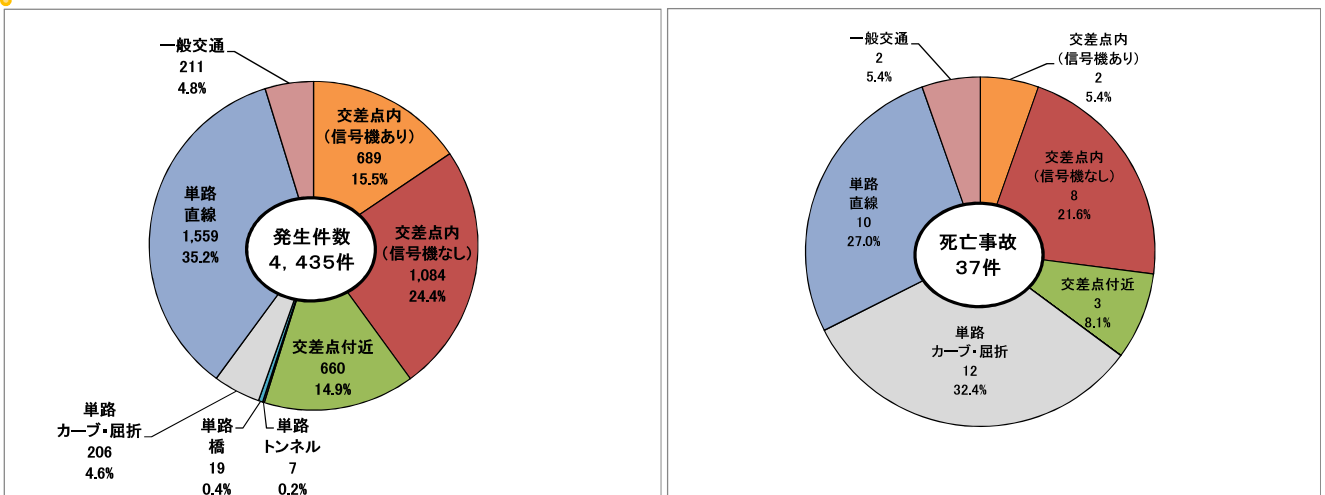
発生件数は、昼(2,745件)が最も多く、薄暮時間帯(昼明、昼暮)を含む昼間の事故は、72.7%を占めています。
死亡事故は、夜(18件)が最も多く、薄暮時間帯(夜暮、夜明)を含む夜間の死亡事故は、56.7%を占めています。
死亡事故率は、夜明(2.33%)が最も高く、次いで夜(2.22%)となっています。

17 路線別発生状況

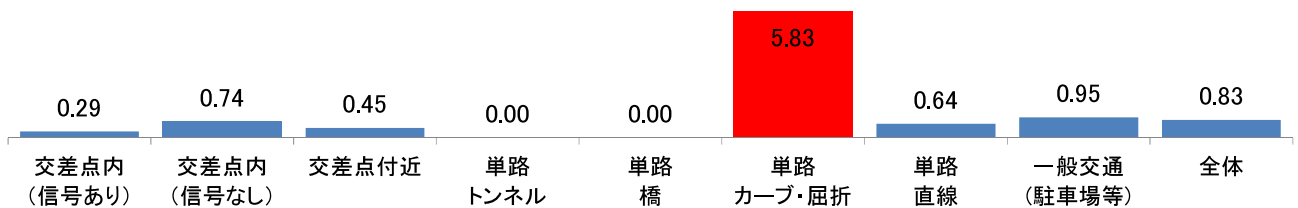


発生件数は、市町村道(1,569件)が最も多く、次いで国道(1,347件)となっています。
 死亡事故は、国道と県道(各12件)が最も多くなっています。

18 道路形状別発生状況



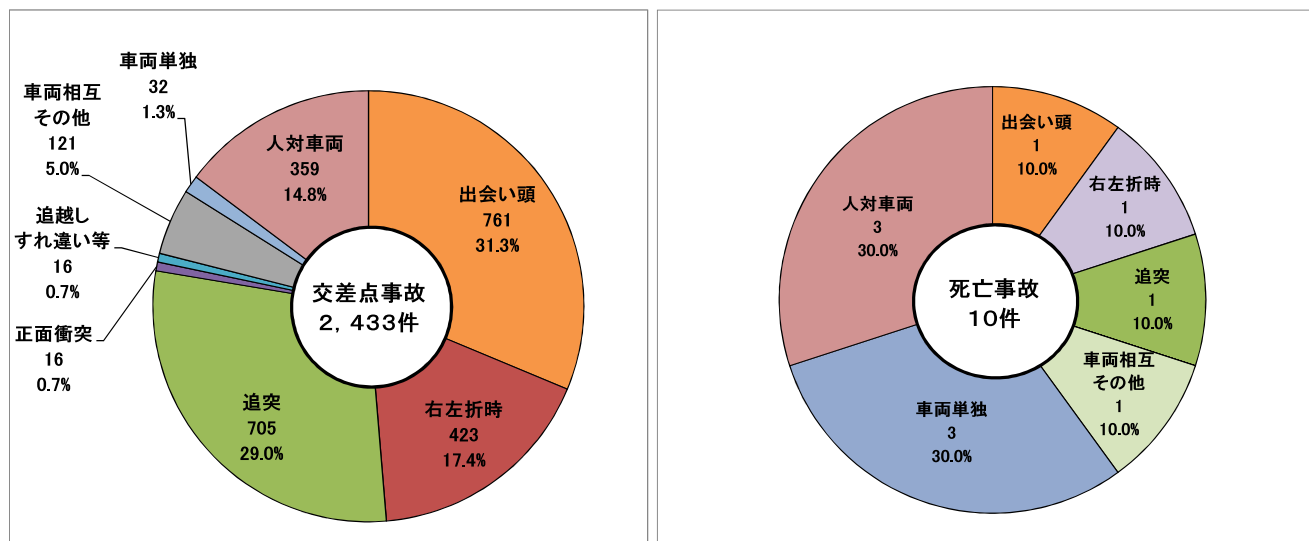
道路形状別死亡事故率



発生件数は、単路直線(1,559件)が最も多く、次いで信号機のない交差点内(1,084件)、信号機のある交差点内(689件)となっています。
 死亡事故は、単路のカーブ・屈折(12件)が最も多く、全体の32.4%を占めています。
 死亡事故率は、単路のカーブ・屈折(5.83%)が最も高くなっています。

19 交差点事故発生状況

交差点(付近を含む)事故の事故類型別発生状況



交差点事故(交差点付近を含む)は、出会い頭(761件)が最も多く、次いで追突(705件)、右左折時(423件)の順となっており、これらで約8割(77.6%)を占めています。

交差点事故の発生件数が多い市町村

市町村名	発生件数	事故類型の内訳										
		交差点事故	構成率	出会い頭	右左折時	追突	正面衝突	追越しすれ違い時	車両相互 その他	車両単独	人対車両	
1 那覇市	1,142	634	55.5	175	126	153	2	5	40	7	126	
2 沖縄市	458	267	58.3	91	39	77	2	2	12	6	38	
3 浦添市	423	226	53.4	63	35	64			14	3	47	
4 宜野湾市	341	193	56.6	44	45	74		2	5	1	22	
5 うるま市	277	143	51.6	51	19	44	1	2	5	1	20	
6 北谷町	196	104	53.1	29	17	39	3		9		7	
7 名護市	198	95	48.0	30	17	27	3		5	2	11	
8 南風原町	136	81	59.6	23	18	29			3		8	
9 糸満市	126	80	63.5	28	17	14	1		2	2	16	
10 宮古島市	137	75	54.7	44	3	9		1	6	1	11	
全体	4,435	2,433	54.9	761	423	705	16	16	121	32	359	

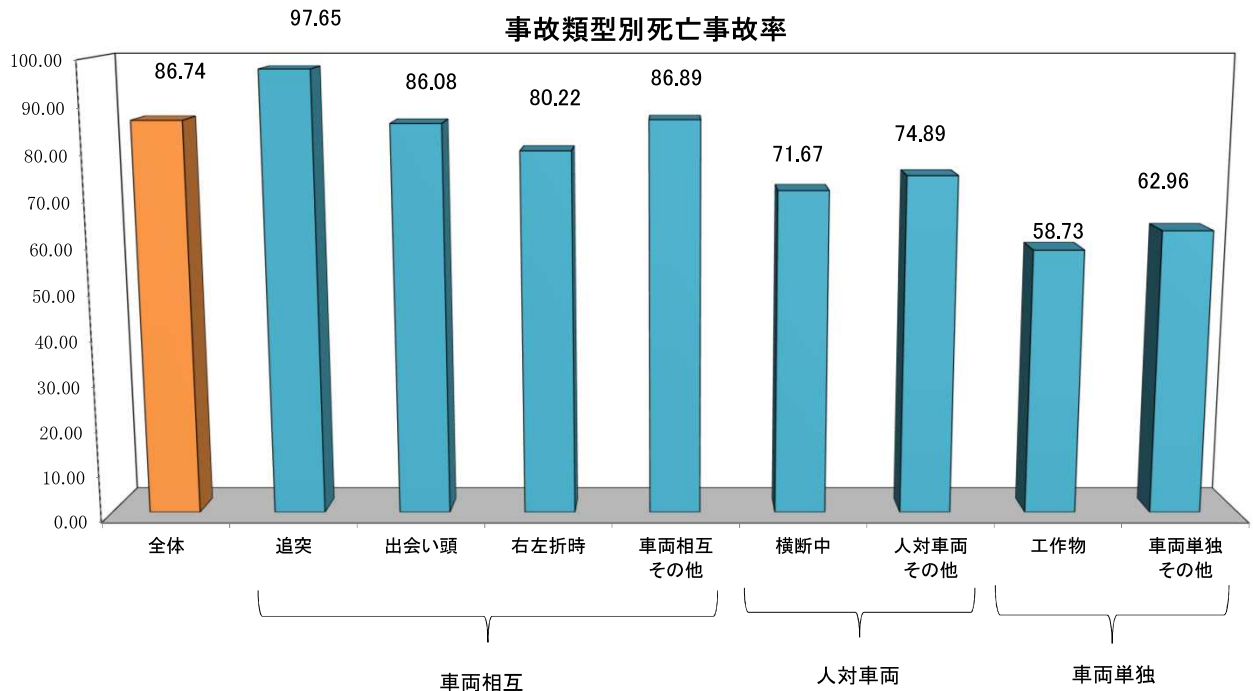
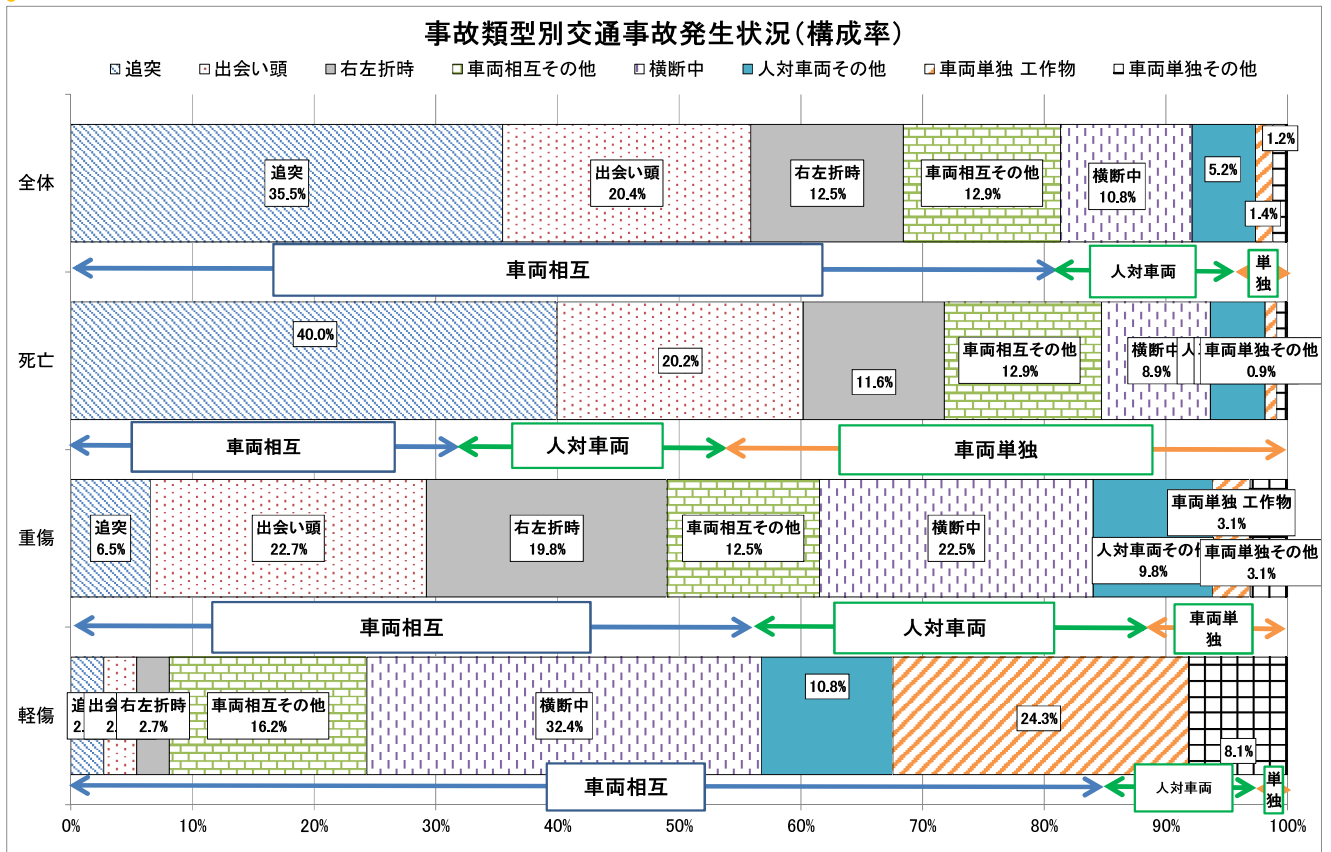
20 事故多発交差点

事故多発交差点(人身事故)

多発交差点	管轄警察署	市区町村	主路線	発生件数	事故類型別発生件数								
					横断歩道 横断中	横断歩道付近 横断中	出会い頭	追突	右折直進	右折時その他	左折時	車両相互 その他	
1 古島インター	那覇署	那覇市	県道82号線	13			1	7	4	1			
2 安謝交差点	那覇署	那覇市	国道58号	10	1	1	1	5	1			1	
3 渡口交差点	沖縄署	北中城村	国道329号	10	1			8					1
4 旧伊佐交差点	宜野湾署	宜野湾市	宜野湾市道	8				8					
5 津嘉山バイパス 入口交差点	那覇署	那覇市	国道329号	7				1	4			1	1
5 コザ十字路	沖縄署	沖縄市	国道329号	7	2			5					
5 ライカム	沖縄署	北中城村	国道330号	7			1	5	1				

平成30年中の交差点事故は、古島インターが13件で最も多く、次いで安謝交差点と渡口交差点がそれぞれ10件、旧伊佐交差点が8件の順となっています。

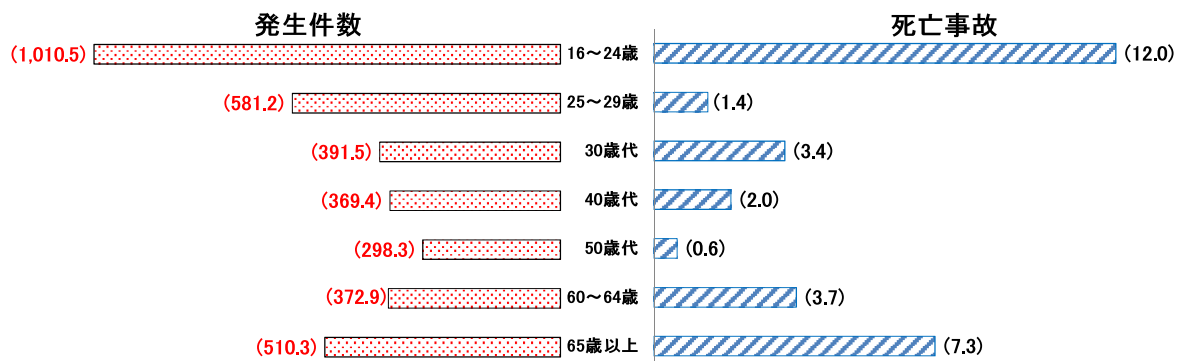
21 事故類型別発生状況



- 事故類型別の交通事故発生状況は、追突事故、出会い頭事故、右左折時が多く、全体の約7割(68.4%)を占めています。
- 死亡事故は、車両単独が32.4%、車両相互が24.3%、人対車両が43.2%となっています。
- 交通事故に占める死亡事故率は、車両単独の工作物衝突事故が14.29%と最も高く、全体(0.83%)の約17倍となってい

22 年齢層別発生状況

原付以上運転者(第1当事者)の年齢層別運転免許保有者10万人当たり交通事故件数

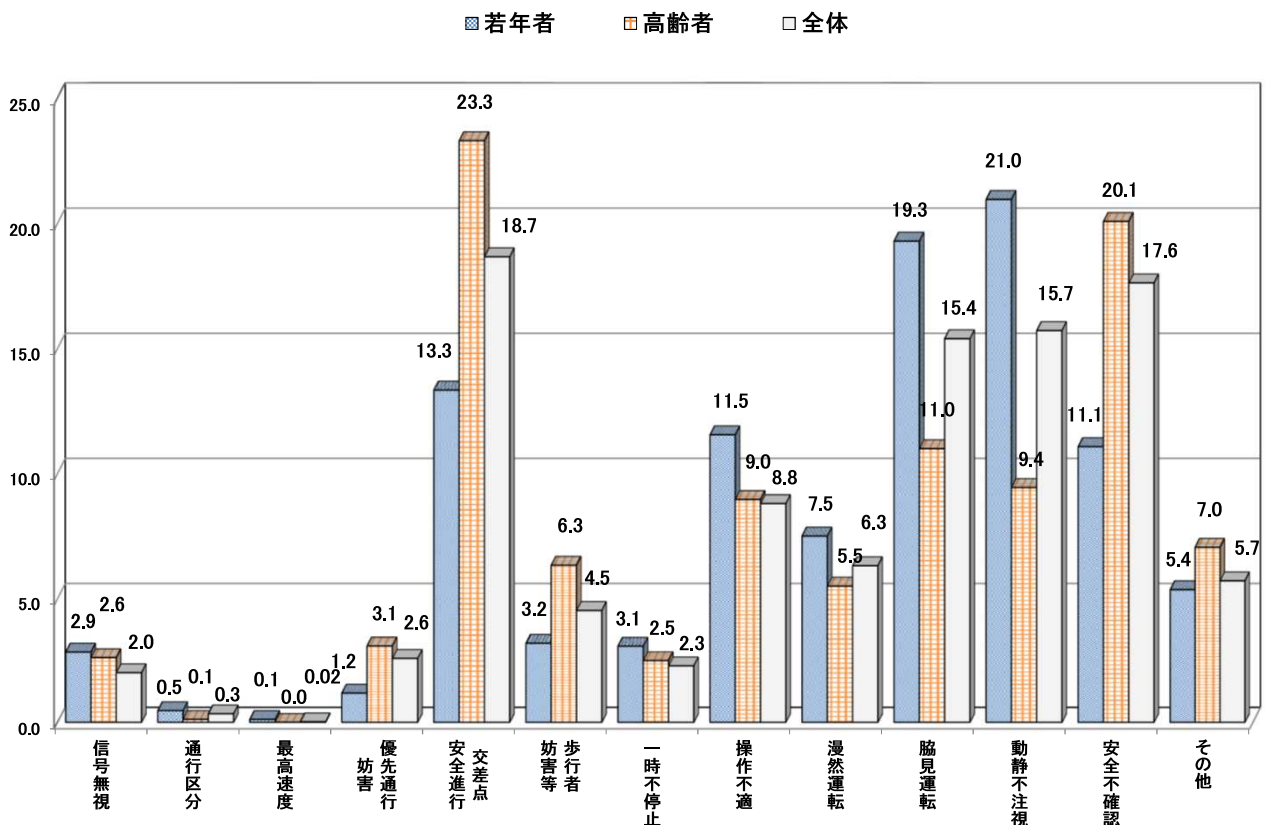


※ 上記の年齢層別の運転免許保有者数は、平成29年12月末の資料による。

- 発生件数は、若年者(16~24歳)(1,010.5件)が最も多く、次いで25~29歳(581.2件)となっています。
- 死亡事故は、若年者(12.0件)が最も多く、次いで65歳以上(7.3件)となっています。
- ※ 運転免許保有者10万人当たりでは、発生件数、死亡事故いずれも若年者の運転による事故が多くなっています。

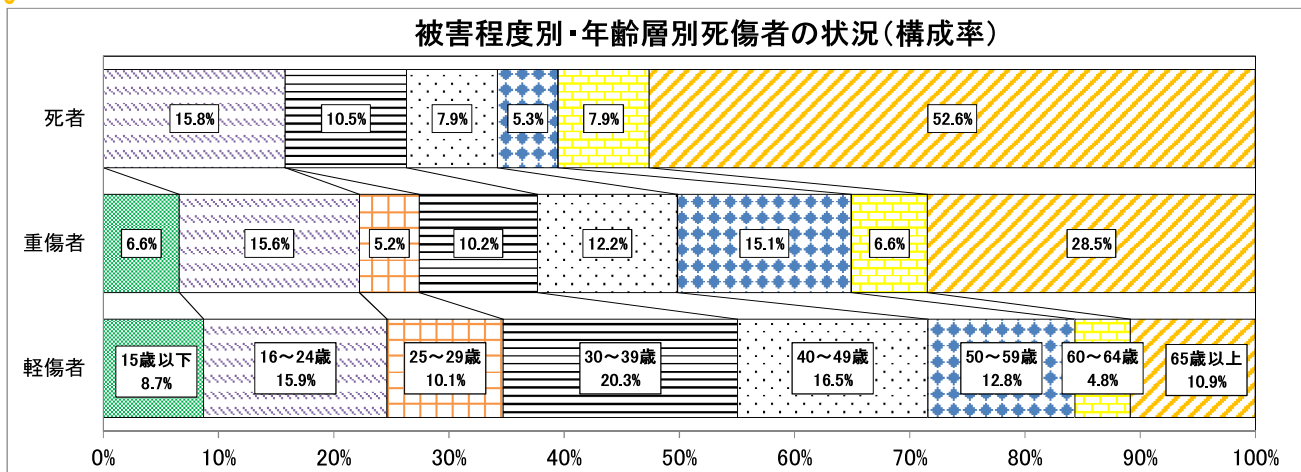
23 法令違反別・年齢層別発生状況

原付以上運転者(第1当事者)の法令違反別・年齢層別交通事故の構成率



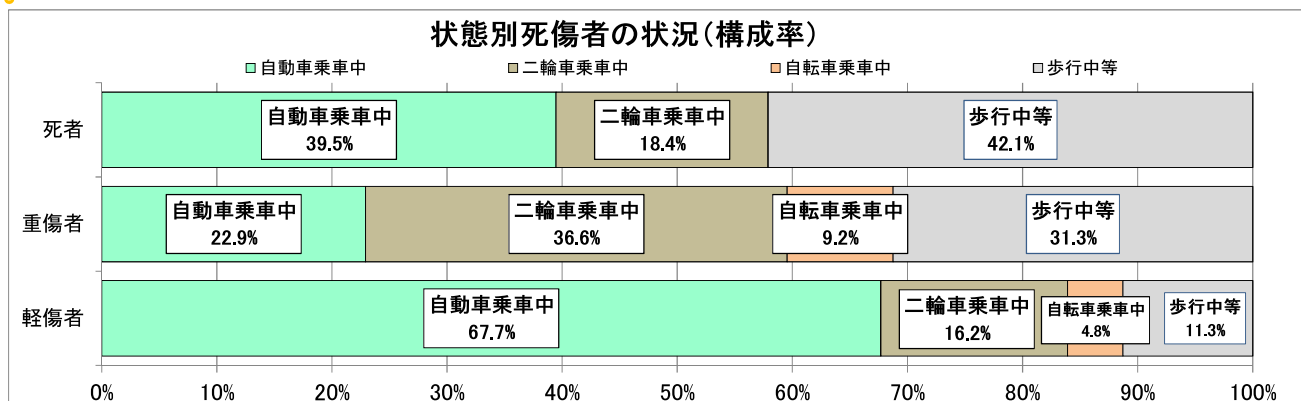
- 交通事故全体の法令違反は、交差点安全進行義務違反(18.7%)の割合が最も高く、次いで安全不確認(17.6%)の割合が高くなっています。
- 若年者(16~24歳)は、動静不注視(21.0%)、脇見運転(19.3%)の割合が高くなっています。
- 高齢者は、交差点安全進行義務違反(23.3%)、安全不確認(20.1%)等の割合が高くなっています。

24 年齢層別死傷者の状況



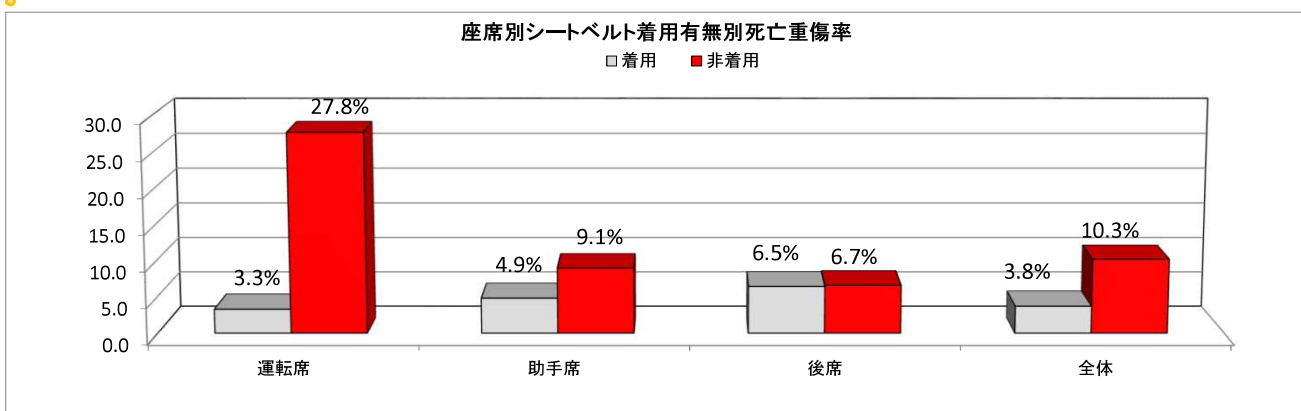
被害程度別の構成率が最も高い年齢層は、死者及び重傷者は、高齢者(65歳以上)(死者 52.6%・重傷者 28.5%)で、軽傷者は30~39歳(20.3%)となっています。

25 状態別死傷者の状況



死傷者の状態別状況は、死者は歩行中等(42.1%)の割合が最も高く、重傷者は二輪車乗車中(36.6%)、軽傷者は自動車乗車中(67.7%)が高くなっています。

26 シートベルト着用状況



シートベルト(チャイルドシートを含む。)着用有無別死亡重傷率は、着用者3.8%に対して、非着用の死亡重傷率が2.7倍の10.3%となっています。

座席位置別の死亡重傷事故率は、運転席の非着用が27.8%と高く、着用者の8.4倍となっています。